



尾原ダム・斐伊川でつながる上下流域の交流

どんぐりの森づくり
どんぐり・竹ポット引き渡し式

11月30日、尾原ダム建設予定地の木次町尾崎地区で、ダム関連工事により失われた森林の復元と斐伊川上下流域の交流を深めようと「どんぐりの森づくり」が行われました。このイベントは、どんぐりの森づくり実行委員会（国土交通省・雲南市・仁多町・NPO法人斐伊川くらぶ）が主



催し、平成12年度から毎年行っているものです。

この日は、雲南市内の小学校5校（久野、温泉、西日登、寺領、掛合）をはじめ仁多町、平田市、大社町、松江市から7校の児童、あわせて約300人が参加しました。

種となるどんぐりには、地元の児童たちが近くの山で拾ったどんぐりを使用し、それを蒔くポットには、下流域の児童たちが作った竹製のポットが使われました。

児童たちがどんぐりを植えた苗ポットは、竹により外敵から守られ、春には芽を出します。そして、苗木となる大きさまで育つと、建設がすすむダム周辺地域の山の斜面へ移植される予定となっています。



地元の温泉小学校で交流会も行われました

日本一の桜の名所に雲南市誕生を記念した

桜の名所の植樹

当日は、大東明寿会の会員や大東保育園の園児など約50人が参加し、5本の苗木を一本一本丁寧に植樹していただきました。

今後、雲南市では、日本一の桜の名所をめざし、市内全域で桜の植樹などの取り組みをすすめていきます。



大東町大東に建設中の大東公園チャレンジ広場で、12月2日、松下電器産業株式会社（本社大阪府）から贈られた桜の植樹式が行われました。

この苗木は、同社が募集した「あなたの大切な場所に緑を贈ろう」キャンペーンに、地元の老人クラブ・大東明寿会（嘉本恵吉会長）で応募した企画が採用されたことから贈られたもので、大東明寿会から雲南市に寄贈されました。



大東明寿会嘉本会長（写真右）から細木勝産業振興部長、堀江善彦大東総合センター長へ苗木が贈られました